

2015.04.18-2

井原山(いώραやま)983mのイチリンソウ、ニリンソウ



ニリンソウ (二輪草)

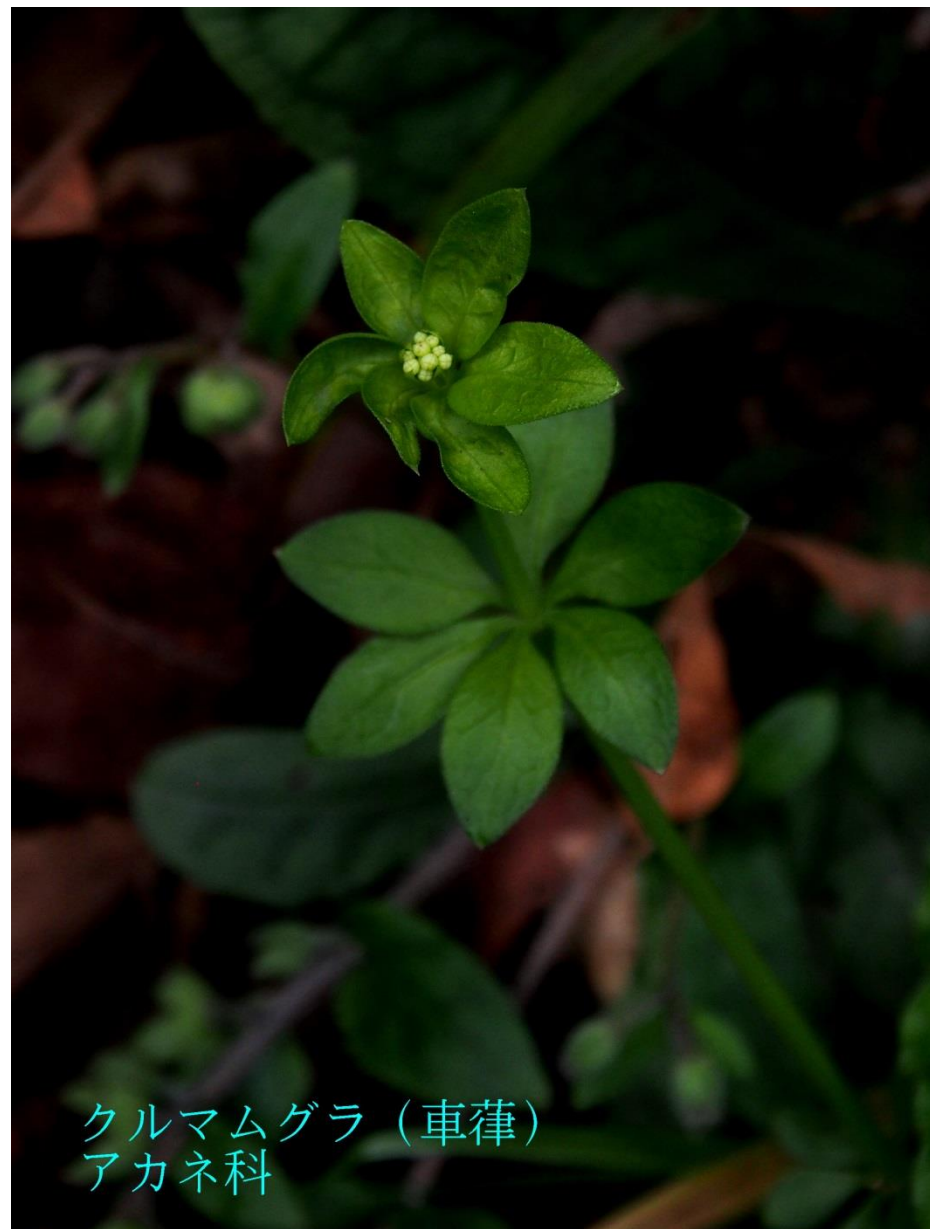


イチリンソウ (一輪草)

春先に花を咲かせ、落葉広葉樹林の若葉が広がる頃には地上部は枯れてなくなり、その後は翌春まで地中の地下茎で過ごすスプリング・エフェメラルの一種である。



クルマムグラ: 日陰の花で、薄暗い林の中で見られる。
車の車輪のように輪生する葉の上に小さな花をつける。



イチリンソウ（一輪草） キンポウゲ科

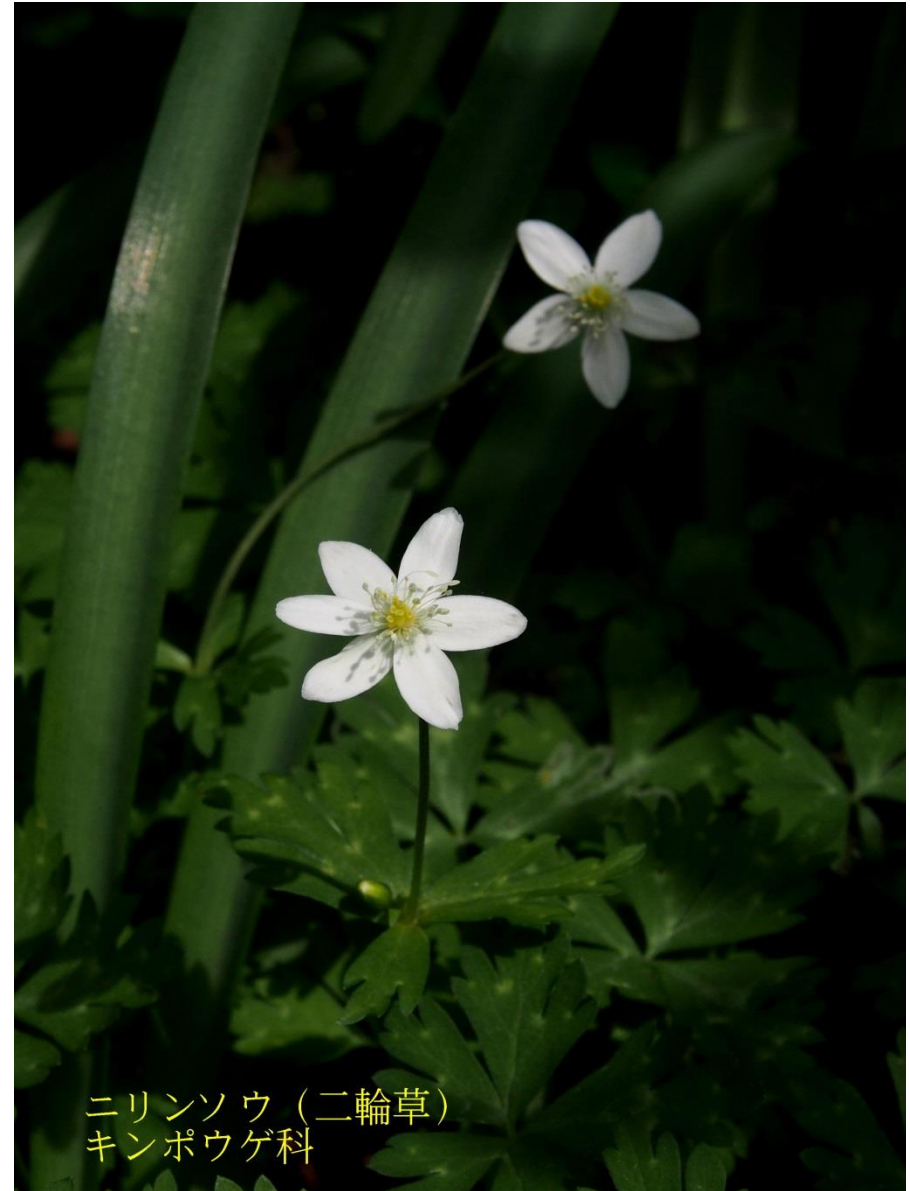
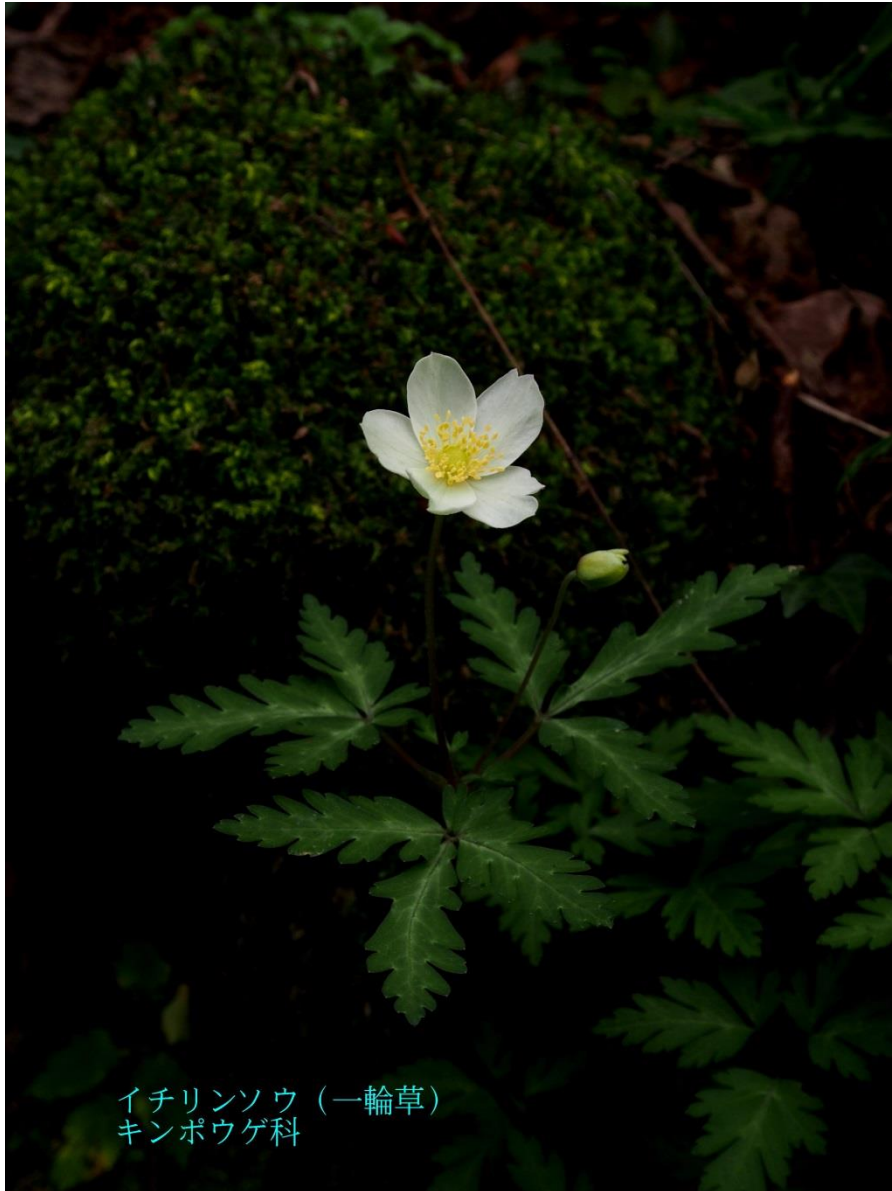


ムラサキケマン（紫華鬘） ケシ科



イチリンソウ（一輪草）
キンポウゲ科

ひとつの茎に花をひとつだけ咲かせるのでイチリンソウと呼ばれる。しかしひとつの茎に花を2個つけることもあり、群生地ではかなりの頻度で2花のイチリンソウが見られる。



ニリンソウ（二輪草） キンポウゲ科





ニリンソウ（二輪草） キンポウゲ科

ニリンソウ（二輪草） キンポウゲ科



コチャルメルソウ（小哨唎草） ユキノシタ科

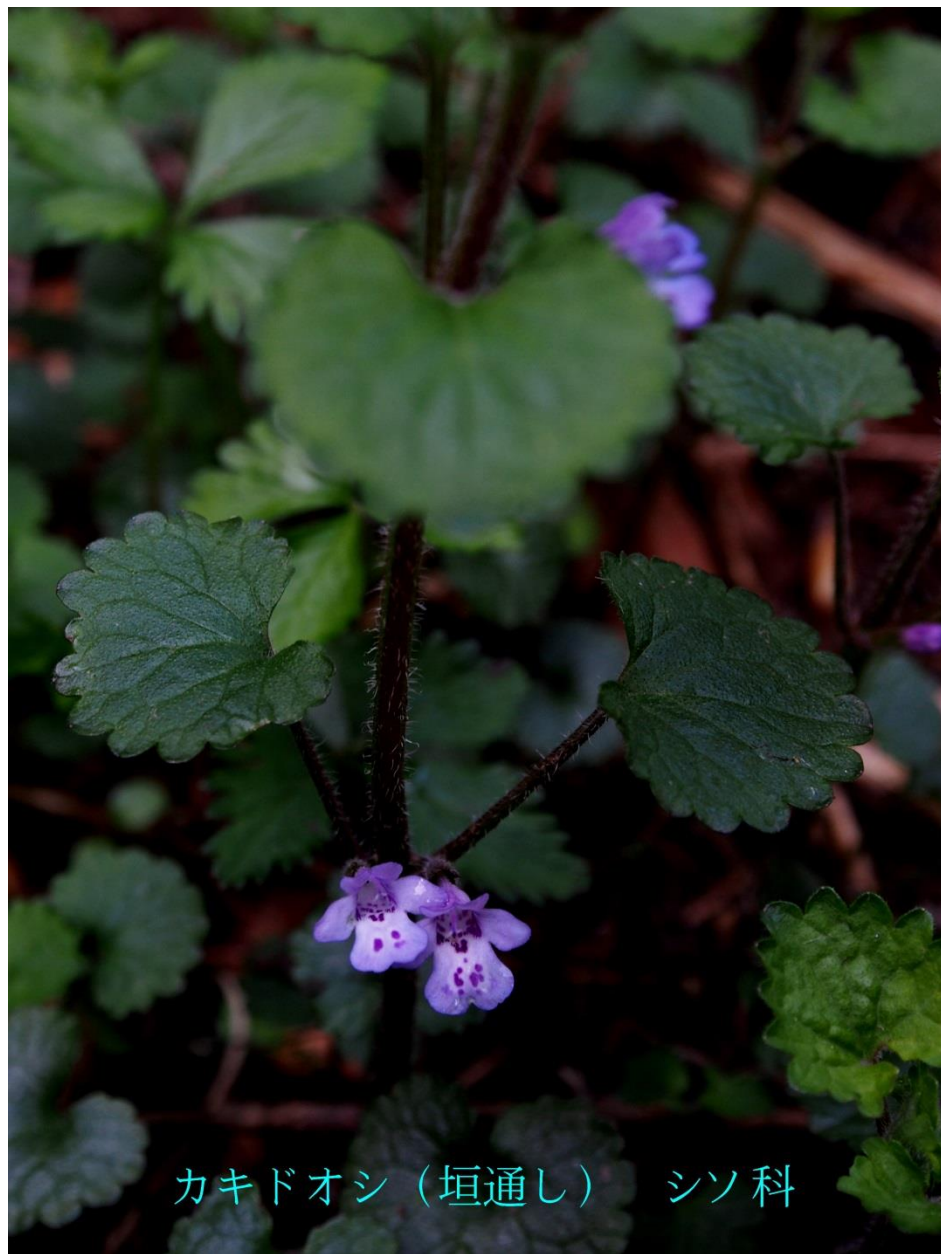


ツクシタニギキョウ（筑紫谷桔梗）
キキョウ科

隣接地から垣根を通して進入してくることがカキドオシの名前の由来となっている。

全草を乾燥したものは和種・**連銭草**(れんせんそう)中国種・**金銭草**という名で生薬にされ、子供の**癩の虫**に効くとされる。このことからカントリソウの別名がある。

ヨーロッパ原産の斑入り種は見た目の美しさから、属名の「**グレコマ**」という名称で園芸やグランドカバー目的に栽培、販売がされている。



カキドオシ (垣通し) シソ科

日本では本州、四国、九州に、日本国外では朝鮮半島、中国に分布し、
山地の林内の湿った場所や溪流沿いに自生する。
名の由来は、[渡辺綱](#)が[羅生門](#)で切り落としたとされる鬼女の腕に見立てたものとされる。



日本では北海道、本州、四国、九州に、日本国外では朝鮮半島、中国、カラフトに分布し、山地の林内や日当たりの良いやや乾いた草原に自生する。花は日があたって
いる時だけ開き、曇天、雨天時は、筆先の形をした蕾状態になって閉じている。



球根や葉にはシュウ酸カルシウムの針状結晶が含まれ、有毒。
誤って食すと口中からのどまでに激痛がはしり、
唾を飲み下すことすらできないほどとなる。



コンロンソウ（崑崙草）アブラナ科



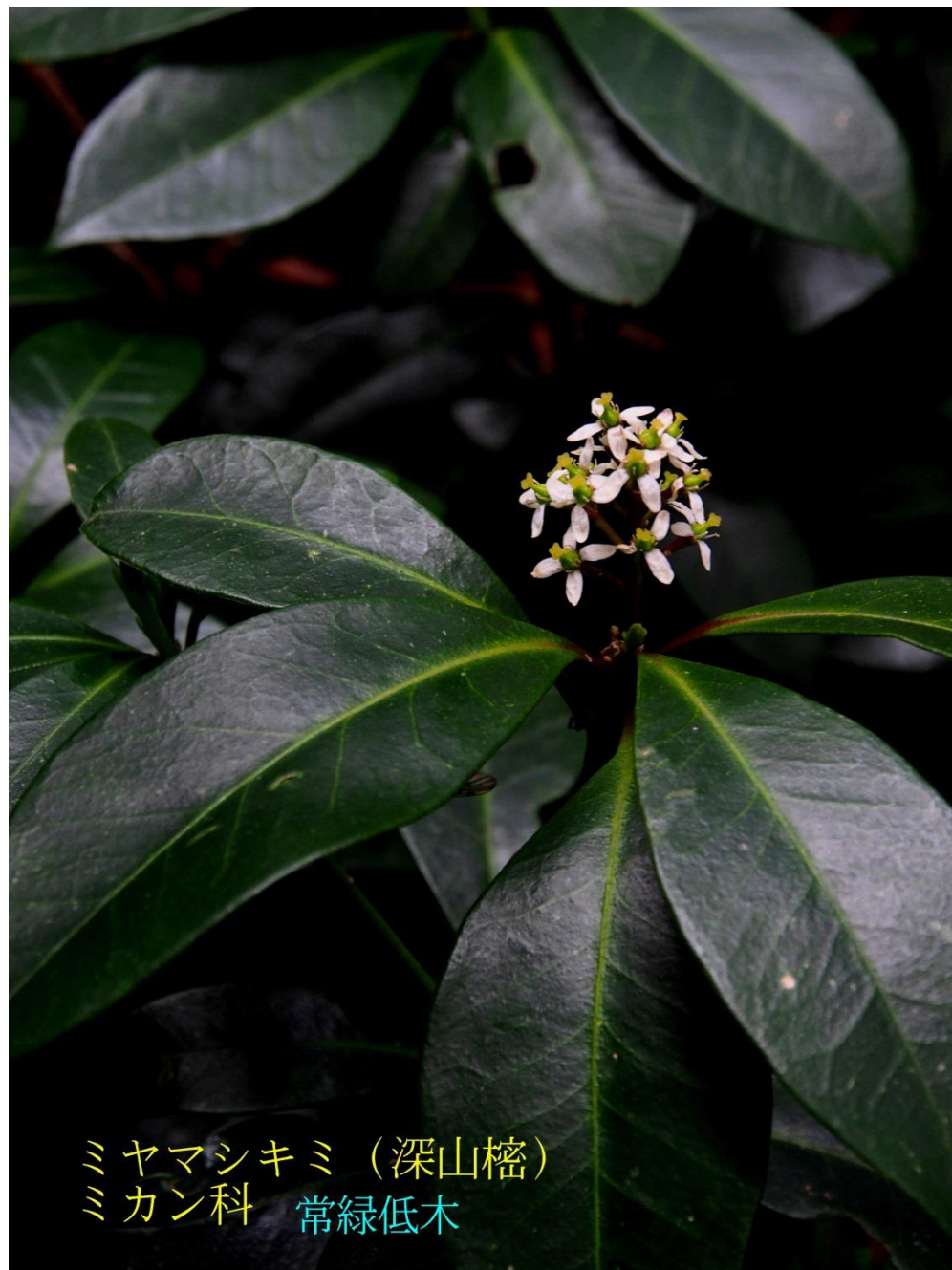


トウゴクサバノオ（東国鯖の尾）キンポウゲ科



スズシロソウ（蘿蔔草） アブラナ科

東アジア、東南アジア
の温帯、暖帯に分布し、
約9種知られている。
ミヤマシキミの各品
種は欧米を中心に
花・実を観賞するた
めに栽培されるが、
日本ではあまり栽培
されない。
果実は赤く目立つが
有毒である。



ミヤマシキミ（深山檜）
ミカン科 常緑低木



エイザンスミレ（叡山堇） スミレ科

A close-up photograph of a plant with several bright purple flowers. The flowers have five petals and a white center with dark purple veins. The plant has green, heart-shaped leaves with serrated edges. The background is a dense layer of dry, brown leaves and twigs, suggesting a forest floor or a field of dried vegetation. The lighting is bright, highlighting the vibrant purple of the flowers.

シハイスミレ (紫背董)
スミレ科



ナガバノスマイレサイシン（長葉の菫細辛） スミレ科



フモトスミレ (麓堇) スミレ科





タチツボスミレ（立坪堇）スミレ科



ヤマドリソウ（山瑠璃草） ムラサキ科